

【様式①】令和5年度 学校評価書(小・中・特別支援)

学校名 岐阜市立加納中学校

校長名 岩佐 優

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	学びに向かう生徒の主体性を育む教科指導の実践を進める。その中で各教科が担う役割を考えながら、その教科固有の資質・能力の育成を目指した授業づくりに取り組む。また地域と連携・協働した教育活動の実現を目指す。	A	学校評価の生徒回答は、主体的に学習に向かった:84.9%、協働学習により理解が深まった90.9%、他教科や総合的な学習の時間への活用:76.1%であり、学びの実感を得ることができたが、身に付けた資質・能力の活用に課題がある。 総合的な学習の時間において、地域社会人を講師に招き、講話を実施することができた。	授業では、協働学習において、男女分け隔てなく活発に意見交流をし、自分の考えを話すことができています。先生との距離感もよく、授業に向かう姿も意欲的です。 地域と連携・協働した教育活動になるように総合的な学習の時間を軸にして学びを展開できるとよい。	学びに向かう生徒の主体性を育む教科指導の実践を進める。その中で各教科が担う役割を考えながら、その教科固有の資質・能力の育成を目指した授業づくりに取り組む。 また、学んだこと活用し、地域と連携・協働した教育活動になるように、総合的な学習の時間を軸にして展開する。
コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進	コミュニティ・スクールの機能を活用し、生徒の発表会などを参観する場、地域清掃などで協働する場、いじめについて語る会などで参画する場を通して、「地域とともにある学校づくり」を目指す。 また、小中9年間の系統性を意識し、一貫性のある教育活動を展開する。	A	総合的な学習の時間の発表会では、生徒が学習の成果を発揮する場に多くの保護者が参加できた。しかし、職業講話等における保護者の参加は少なかった。 また、幼稚園の園長や小学校の校長を運営協議会の委員に任命し、幼小中の系統性を意識する交流ができた。	職業講話等における保護者の参加や、「加中寺子屋」における地域の方の参加が少なかった。学校からの発信だけではなく、PTAや支援推進委員会のサポートが必要になる。 幼小中の園長、校長の交流により、運営協議会内で連携が図られ、系統性のある教育活動が展開できたのはよかった。	コミュニティ・スクールの機能を活用し、総合的な学習の時間の学習発表会などを参観する場、資源分別回収などで協働する場、加中寺子屋などで参画する場を通して、「地域とともにある学校づくり」を目指す。 また、幼小中12年間の系統性を意識し、一貫性のある教育活動を展開する。
あたたかさや働きがいにあふれる学校づくり	「学校が楽しい」と生徒が言える環境にするために、教員自身がわくわくするような魅力ある授業や教育活動を展開できるよう工夫する。 挨拶と笑顔があふれ、人間関係づくりを大切にしたり、一人一役の役割や存在を大切にしたりする職員室経営や生徒会活動を展開する。	B	「学校が楽しいですか」の質問に対し、生徒回答は79.9%と昨年より4.8ポイント減少している。さらに、魅力ある授業や教育活動を展開できるように工夫する必要がある。 また、「学校で進んで挨拶している」の質問に対し、生徒回答は71.3%と昨年度より9.0ポイント減少している。挨拶をすれば返すことができるが主体性に弱さがある。	保護者は、学校評価にて「先生方が親身になって対応してくれる」と評価していることで、今後も生徒一人一人を大切にしたい教育活動を展開していけるようにする。 「どの子ども伸びようとしている」という本校の教育観、生徒観を大切に、あたたかさや働きがいにあふれる学校づくりを展開していく。	生徒のありのままを受け止め、「どの子ども伸びようとしている」という教育観のもと、あたたかさにあふれる学校づくりを推進していく。 魅力ある授業や教育活動を展開できるよう工夫し、「学校が楽しい」と生徒が言える環境にする。人間関係づくりを大切に、挨拶と笑顔があふれる職員室経営や生徒会活動を展開する
災害、事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保	生徒に「地域を支える一員」である自覚を促すため、保護者、地域住民とともに防災研修(DIG)を実施するとともに、浸水害想定訓練を実施し、地域の方との連携を図る。(命の尊厳) 対応については、生徒や職員命を第一に考え、安全性を確保する。	B	防災教育については、外部講師を招聘し、3年生に防災教育(DIG)を実施した。情報モラル教育については、業者の教材DVDを活用し、情報主任・担任による情報モラル教室を実施した。また、命を守る訓練では、浸水害想定訓練を実施したが、地域の方との連携は図ることができなかった。	災害時には、防災学習を生かして、中学生が地域に貢献することを期待している。浸水被害等の発生の可能性が高い災害から、具体的な想定で学習を進める必要がある。 情報モラル教育のSNSトラブル防止は、いじめの未然防止にもつながる。指導の徹底を進めるべきである。	生徒に「地域を支える一員」である自覚を促すため、保護者、地域住民とともに防災研修(DIG)を実施し、浸水害想定訓練を実施し、地域の方との連携を図る。(命の尊厳) 外部講師による情報モラルに関わる講演とともに、定期的にタブレットの適切な使用についての指導を進める。
教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用	ICT機器を活用することで、生徒の資質・能力の育成に有効かつ効果的な実践を明らかにして、より適した方法を生徒と共有する。(教育DXの推進) オンラインで行うべき内容と対面で行うべき内容の吟味検討し、ハイブリットに進めていく。また、地域人材の交流等も含め進めていく。	A	「ICT機器を活用している」という質問については、生徒回答が92.7%となっており、教師も生徒もその活用方法には慣れてきている。さらにロイロノートの活用も進んでいる。 オンラインで実施するものと、対面で実施するものについて、教育的効果を吟味しながら教育活動を進めることができた。	学校評価の生徒記述に、「ロイロよりノートを希望」という回答があり、生徒の資質・能力の育成に有効かつ効果的なICT機器活用の仕方を引き続き吟味する必要がある。 また、タブレットを活用して意見交流ができていますが、保護者については、情報伝達をもっと早くしてほしいという要望があり、活用の仕方には工夫が必要である。	生徒の資質・能力の育成に有効かつ効果的な実践にするため、ICT機器の活用について、より適した方法を生徒と試行錯誤し共有する。(教育DXの推進) オンラインで行うべき内容と対面で行うべき内容の吟味検討し、ハイブリットに進めていく。また、地域人材の交流等も含め進めていく。

HPアドレス:

<https://gifu-city.schoolcms.net/kanou-j/>